

# 川尻地区まちづくり計画

平成21年(2009)8月

発行

呉市川尻町まちづくり委員会

【事務局】

〒737-2603 呉市川尻町西1丁目1番1号

川尻市民センター 川尻支所内

TEL(0823)87-3310 FAX(0823)87-5321

HP <http://www.city.kure.lg.jp/~kawazirisc/>

呉市川尻町まちづくり委員会

## ～『彩り薫る「かわじり」いいな』を目指して～

まちづくりは、行政だけで行うことはできず、地域の担い手である住民や企業などの理解と協力のうえに成り立つものであり、地域が一体となって生み出す創意と努力が大きな力となります。

また、まちの魅力は物的環境が整っているだけでは十分といえず、多くの人々がそれを利用し、活かしていくことが大切です。加えて、物的環境を生み出す過程においても、住民をはじめとした様々な意見やアイデアを把握し活用することが重要な鍵となり、そうした取り組みは、出来上がったものを大切に、かつ有効に利用していくことにもつながります。

加えて、住民同士のふれあい、他地域との交流など、多様な活動と交流が生まれていくことが、住民生活やまちの豊かさをはぐくむことにつながり、併せて幅広い交流と連携がまちづくりの力にもなります。

このため、まちづくりを進めるにあたっては、住民の意見の把握と反映、住民相互や行政と住民、企業等の協調と連帯が不可欠であり、地域ぐるみでまちづくりに取り組むことが重要です。

そのことから、この川尻地区まちづくり計画は、住民が主体となった新しいまちづくりの指針として策定するものであり、今後、この計画をまちづくりの柱として進めるとともに、『彩り薫る「かわじり」いいな』を目指して取り組んでいくものです。

このまちづくり計画にご理解をいただき、よりよいまちづくりを推進するために皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

呉市川尻町まちづくり委員会 会長 隠村 誠二



## まちづくり計画策定のあゆみ

平成21年3月	まちづくり委員会で「まちづくり計画」策定を決定
平成21年4月	まちづくり計画ワークショップメンバー決定
平成21年5月	第1回ワークショップ開催
平成21年6月	第2回ワークショップ開催
平成21年7月	第3回ワークショップ開催
平成21年7月	第4回ワークショップ開催
平成21年8月	第5回ワークショップ開催
平成21年8月	まちづくり計画(案)完成
平成21年8月	まちづくり委員会に報告・検討・承認

## まちづくり委員会メンバー等

会 長	隠村 誠二
副 会 長	蔵本 恒満
会 計	倉田 良美
監 事	三京 玉男 森川 泰博
委 員	中舛 京子 今村 和明
顧 問	坪川 禮巳 渡辺 正弘 綿野 成泰 梶山 治孝
策定委員	大岡 準司 岡田 快之 北村 正次 中原 洋子 濱岡 慶次 向井 徳望 森光 祐三 山口 幸彦

## 川尻地区の概要

## 歴史

川尻地区は、明治22(1889)年の町村制の施行に伴って「川尻村」として発足し大正11(1922)年には町制を施行しました。そして、昭和31年には郡の再編成により豊田郡の所属(従来は賀茂郡)となり、昭和33年には安登村の一部を編入しました。

その後、昭和40年代の中頃、呉市から合併の申し入れがありましたが、住民アンケート調査の結果、合併は見送られました。

しかし、地方分権という時代の流れには逆らうことができず、呉市との度重なる協議の結果、平成16年4月1日に川尻町は呉市と合併しました。

## 地理

川尻地区は、広島県の中央南部に位置し、西に仁方地区、東に安浦地区が接し、南は瀬戸内海を隔てて、蒲刈地区や下蒲刈地区などの島嶼部の島々が面しています。

また、安芸灘大橋の完成によって、川尻地区は本州と島嶼部をつなぐ玄関口ともなっています。

主要都市との位置関係をみると、地方中枢都市である広島市とは約40キロ、三原市とは約50キロ、呉市中心部とは約15キロの距離にあり、JR呉線及び一般国道185号線によって結ばれています。



川尻地区の面積は、16.85キロ平方メートルと小さく、前面に瀬戸内海、背後に野呂山が位置するなど自然に恵まれ、生活空間は瀬戸内海に開かれた形でコンパクトな形態となっています。

また、瀬戸内海には、豊かな緑におおわれた風光明媚な柏島が浮かび、安芸灘諸島の他の島々とともに景観をより特徴づけています。一方、背後に位置する野呂山は、標高800メートル前後の高原を形成するとともに、膳棚山をはじめとした峰を擁しながら、2本の尾根を中央部の市街地付近まで配し、さらに、東西においては、海岸付近まで尾根を伸ばしています。

## 気候

川尻地区の年間の平均気温は約16℃で、月別平均気温は8月が約28℃で最高、1月が約6℃で最低となり、降雪も年間で数える程度です。また、最高気温の平均は、8月には30℃を超えています。ただし、野呂山については、氷池と呼ばれる池があるなど、低地部との気温格差があります。

年間の降雨日数は100日弱の年が多く、月別平均降雨量は7月は約250mmで最高、12月が約30mmで最低となっています。このように川尻地区は典型的な瀬戸内式気候の様相を呈し、温暖で比較的少雨の過ごしやすい気候条件となっています。



## 人口



川尻地区の人口は、平成7年3月末に10,603人、平成12年3月末に10,380人と1万人の大台に達していましたが、平成21年3月末では9,803人と1万人を割っており、社会経済状況の変化を背景として、減少傾向にあります。

高齢者人口の増加と少子化の傾向は他の地域と同様に表れています。

平成2年以降は人口が減少する一方で、世帯数は増加傾向を示し、平成7年には約3,600世帯でしたが、平成21年3月末では約4,000世帯となっています。

これを世帯人員と相関させながらみると、1世帯当たりの人員は、県平均と比べるとやや多いものの減少傾向にあり、約2.5人と3人を大きく割り込んでいます。

## 産業

農業は、特に土地条件の制約から積極的な展開は厳しい状況にあり、産業全体の中で占める比重も低くなっています。

漁業は、小規模経営の漁船漁業を主体に営まれ、漁場は狭小で限られた資源に依存する漁業形態となっています。

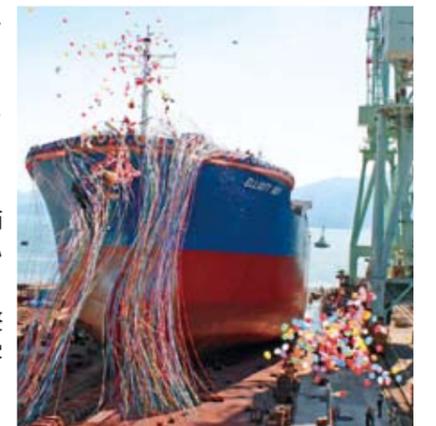
農業と漁業は共に就業者の高齢化、後継者の不足等の問題を抱えています。

工業は、伝統的地場産業である「筆づくり」に加え、輸送用機械器具製造業などの事業所が立地し、基幹産業として位置づけられます。

伝統的地場産業「筆づくり」にも後継者がいないという問題を抱えています。

商業は、商業数、従業者数、年間商品販売額とも小売業が主体で、かつては商店街も形成され、地元購買率も高い水準にありましたが、現在は店舗が点在しているという状況になっています。

観光は、観光地として野呂山があげられ、野呂高原ロッジやキャンプ場などを整備し、広域的な野外レクリエーションゾーンとして活用を進めていますが、観光客は年々減少しており、9割以上が町外からの入込観光客であるにもかかわらず、1人当たりの観光消費額は低くなっています。



～川尻地区まちづくりスローガン（将来像）～

# 彩り薫る「かわじり」いいな

瀬戸内海や野呂山といった豊かな自然環境の中で、住民一人一人が安心していつまでも住んでいて心から「いいな」と思えるまちにしていこうという願いを込めた将来像です。

豊かな自然環境と共に人と人がふれ合い福祉・文化・スポーツなどのあらゆる面で楽しく安心して快適に住み続けられるまちにするため、人づくり地域づくりを進めていくことがこれからのまちづくりにおいて大切であると考えています。

## まちづくり計画実践のための4つの柱（振興方針）

**1 海と山が織りなす 彩りあるまちづくり**  
 豊かな自然を大切に活かすことで、観光などを通じて地域活性化につなげ、明るく活力あるまちづくりを進めていきます。

- 活動方針**
- 【自然を活かす】** …野呂山に代表される自然緑地や瀬戸内海の保全に取り組み、大切にすることで川尻の自然の素晴らしさをPRし、多くの人に訪ねてもらえるまちを目指していきます。
  - 【観光の活性化】** …川尻にしかない地域資源を最大限に活用することで他地域からの観光客を呼び込み、まちの活性化を目指していきます。
  - 【目玉創出】** ……特産品を新たに創出することでPR及び販売などの需要経路を構築し、かつ住民が自ら直接販売できる場を開設することで地域の活性化と雇用の創出を目指していきます。

**2 美しく安らかで快適な 彩りあるまちづくり**  
 誰もが心から安らかに過ごせるよう、暮らしの中で快適な環境を整えるまちづくりを進めていきます。また、川尻の広域的な位置づけ・役割や特色を踏まえながら、心豊かな暮らしを支える活力あるまちづくりを進めていきます。

- 活動方針**
- 【安全安心の確保】** 住民の災害意識や防犯意識を高めるために、地域ぐるみで自主的な防災体制づくりや防犯活動・交通安全を推進し、安心して暮らせる社会形成を図っていきます。
  - 【環境美化運動】** …清掃や美化活動などを推進することで、住民の環境に対する意識を高揚させ、美しい自然や景観を大切にしていきます。
  - 【交通面の充実】** …安心して快適便利に暮らせる交通環境を確保するため、道路交通体系や歩道の整備などを推進していきます。

**3 人と人がふれ合い元気な 彩りあるまちづくり**  
 一人一人の住民が家庭や地域で生きがいを感じながら、豊かな心をもって健康に暮らせるまちづくりを目指します。そのため、少子・高齢化社会への対応を踏まえながら、世代間交流などを通じ、みんなでふれ合い支え合うまちづくりを進めていきます。

- 活動方針**
- 【世代間交流】** ……若者からお年寄りまで相互に助け合い、協力しながら交流を深める機会を設けることで社会参加の促進をはかるとともに、人にやさしい心を育むことを大切にしていきます。
  - 【子育ての充実】** …安心して子どもを産み育て、子どもが健やかに成長していけるよう、母子保健事業や子育て相談の充実など、子育て家庭への支援に努めていきます。
  - 【スポーツの振興】** スポーツを通じて得る感動と興奮を共有することで個人の感性や精神的な豊かさを育むことを目的に振興をはかっていきます。
  - 【健康づくり活動】** 健康づくりに関する情報提供と環境整備を進めながら、「自分の健康は自分でつくる」という意識を高めていくとともに、住民の自主的な健康づくり活動を促進していきます。
  - 【福祉の充実】** ……住民の福祉に対する理解を深めるとともに、ボランティア活動などを促進し、互いに支え合う地域社会の形成に取り組んでいきます。

**4 筆と芸術文化の 彩りあるまちづくり**  
 芸術文化という新たな視点を継承・発展させるとともに、地域の特色を生かしながら、一人一人が豊かな感性を育むことができるまちづくりを進めていきます。

- 活動方針**
- 【芸術文化の振興】** 芸術文化の祭典などを通して、住民の自主的で多様な芸術文化活動を推進するとともに、文化交流や優れた芸術にふれ合うことのできる機会や情報の提供に努めます。
  - 【文化の伝承】** ……伝統行事を後生に受け継いでいくとともに、「筆づくりのまち川尻」を守り続けるため、担い手の確保・育成と伝統技術の継承を支援していきます。



▲野呂山山開き



▲防災訓練



▲きんさい喜楽会



▲子育てサロン



▲筆と芸術の祭典



▲かわじり元気まつり



▲町内一斉清掃



▲町民マラソン大会



▲新成人を祝う会



▲祇園まつり

# まちづくりの活動内容

事業名の赤字は新規計画事業です。短期▶は3年以内、中期▶▶は5年以内、長期▶▶▶は10年以内に実施することを目標にしています。

## ① 海と山が織りなす彩りあるまちづくり

川尻地区には、野呂山や瀬戸内海に代表される豊かな自然環境が数多くあり、活用の余地を多分に残しています。しかし、現状ではこれらの素晴らしい資源を有効に活用しておらず、他地域に対してもほとんどアピールできていないという課題が見受けられます。今後は、野呂山をはじめとした観光資源の活用と地域資源を活かした観光の多様な展開が求められており、川尻にしかない個性と特色をより一層育むとともに、川尻にとっての新たな宝となる資源を生み出していく必要があります。

活動方針	事業名	事業内容	実施目標
自然を活かす	野呂山山開き	春の恒例行事。登山者の安全祈願	継続
	のろのろ登山	野呂山の風景を堪能しながらの登山	継続
	野呂山感動クラブイベント	野呂山での桜植栽や椎茸づくりの体験	継続
	人工海浜の創出	潮干狩りや海水浴場といった憩いの場づくり	長期▶
	柏島探検隊	夏場に柏島を探検したり海水浴で自然を満喫	中期▶▶
観光の活性化	指導者の育成	野呂山の動植物、歴史等の案内人	中期▶▶
	野呂山国民宿舎の改修	老朽化した野呂高原ロッジの建て替え	長期▶▶▶
	広報発行PR	チラシの配布やホームページなどを活用	継続
目玉創出	商業施設の振興	他にない特色ある商店街に再生	長期▶▶▶
	特産品の開発	地域資源を活かした特産品の開発	中期▶▶
	市民農園の開設	遊休農地を利用して市民に農園を提供	中期▶▶
	青空市場の開催	川尻港青空市の再開	短期▶
	常設特産品売場の設置	空き店舗などを活用した特産品売場の設置	中期▶▶

## ② 美しく安らかで快適な彩りあるまちづくり

川尻地区では、高齢化が進む中で、災害や交通事故・犯罪といった危険性が増加し、住民の安全と安心の確保に向けた課題は山積みしています。また、環境面でもゴミの不法投棄などルールを守れない人が増えている傾向にあります。交通面では、坂が多くお年寄りには不便なまちであるなど問題点も多々あります。住民やボランティアなどの参加と協力を得ながら、交通安全対策や防犯対策・災害に強いまちづくりに地域ぐるみで取り組む必要があります。また、より快適で質の高い生活環境を得るために、環境面や交通面での基盤整備がより一層必要となっています。

活動方針	事業名	事業内容	実施目標
安全安心の確保	自主防災組織	全ての自治会で自主防災組織を立ち上げ	短期▶
	交通安全指導	交通ルールの大切さを啓発	継続
	防犯強化活動	地域での防犯パトロール、防犯灯や防犯カメラなどの設置	継続
	安全マップの作成	安全に関する地域の情報を共有	短期▶
環境美化運動	町内一斉清掃	年に2回の地域全体での清掃活動	継続
	清掃ボランティア	小中学生やボランティアによる公園などの清掃活動	継続
	ゴミステーション管理	自治会単位でのゴミステーション管理	継続
	不法投棄防止活動	地域での呼びかけや看板の設置	継続
	まち普請事業	住民自ら憩いの場の創出や環境整備	継続
交通面の充実	野呂山無料定期バス	川尻駅から野呂山への無料バスの継続運行	継続
	今治川尻航路運航	島嶼部や四国との連携強化	継続
	駅舎の建て替え及び駅前再開発	駅周辺の賑わい再生と利用促進	長期▶▶▶
	JR呉線の増便	広島市や呉市中心部への利便性の向上	中期▶▶
	小用地区以外での生活バス運行開始	うぐいすラインを通る生活バス	短期▶
	乗合タクシーの運行	路線バスや生活バスの補完	長期▶▶▶
	準基幹道路の整備	国道・県道・うぐいすラインを補完する道路の整備	長期▶▶▶



▲交通安全指導



▲食農教育事業



▲筆づくり体験



▲おたっしゅクラブ



▲とんどまつり



▲まち普請事業

## ③ 人と人がふれ合い元気な彩りあるまちづくり

川尻地区でも、時代の変化で人は多様化してきており、人と人との交流を避け、地域活動に参加しようという意欲を持った人が減ってきている傾向にあります。そのことから、住民一人一人が気楽に参加し、活躍できる場が求められています。地域でのスポーツ活動や各種イベントなどを通して、住民の主体的な参加を促進し、子供からお年寄りまで優しい心でふれ合い・支え合う連帯感のある地域社会を目指す必要があります。

活動方針	事業名	事業内容	実施目標
世代間交流	新成人を祝う会	新成人を地域全体で祝う	継続
	わくわくお話し広場	小学生への絵本朗読ボランティア	継続
	各種まつりの開催	元気まつり、秋まつり、とんどまつりなど	継続
子育ての充実	育児相談室	育児についての悩みごと相談所	継続
	子育てサロン	赤ちゃんや母親向けの遊びの空間	継続
	ブックスタート	民生児童委員が新生児のいるお宅を訪問し絵本の提供	継続
	子育てガイドの作成	子育てに関する地域の情報を掲載	短期▶
スポーツの振興	町民体育祭	地域全体で行う体育祭	継続
	町内マラソン大会	年代別のマラソン大会開催	継続
	スポーツ大会	毎年特定の種目を決めて行われる大会	継続
	施設の利用促進	かわせみプールの活用や東グラウンドの照明設備設置	短期▶
健康づくり運動	ふるさと散歩道ウォーク	健康促進を目的にふるさとをウォーキング	継続
	総合健康診断	無料で診察を受ける場の提供	継続
	食農教育	小学生が野菜づくりや米づくりをすることで食の大切さを学ぶ	継続
	いきいき健康教室	健康についての各種イベントの実施	継続
福祉の充実	各種ふれあい事業	あいあいカフェ、おたっしゅクラブ、ふれあい広場など	継続
	敬老会	高齢者の長寿を地域全体で祝う	継続
	きんさい喜楽会	いきいきサロンの参加者が舞踊・歌謡などを披露	継続
	友愛訪問	一人暮らしの高齢者を訪問	継続

## ④ 筆と芸術文化の彩りあるまちづくり

川尻地区は、公民館活動や芸術村事業などを通じて、芸術や文化に対する関心が高い地域ですが、裾野の広がりという点では、まだまだ充分とは言えません。これまでの事業の展開方法の見直しなどにより地域の人々が芸術や文化に触れる機会をさらに増やし、感性や情緒の豊かさを育てていくことが大切です。

川尻地区の宝である「筆づくり」には後継者がいないという大きな問題点があります。新しい時代の潮流に的確に対応できる地域に根ざした産業としてこれから生き残っていくためには、後継者の育成が非常に重要なことであり、これまでの取り組みを継承・発展させることも必要となっています。

活動方針	事業名	事業内容	実施目標
芸術文化の振興	全国水墨画公募展	全国からの公募を対象とした筆と芸術の祭典	継続
	町民文化祭	絵画・陶芸・書芸などの作品展	継続
	音楽の玉手箱	公民館でのロビーコンサートの開催	継続
	野呂山芸術村交流展	芸術村画家の制作風景公開や絵画教室	継続
文化の伝承	川尻町芸能文化祭	舞踊・歌謡などの発表会	継続
	伝統文化の継承	祇園まつり・さんさ踊り・虫送りなどを後生に伝承	継続
	川尻筆の後継者育成	特産品である川尻筆の伝統を継承	中期▶▶

『これから』 川尻地区における全ての事業を網羅できていたわけではありませんが、今回のまちづくり計画は、まちづくり計画策定部会で出された意見をまとめ、住民一人一人ができることから行政に要請することまで、課題の広がりや対応策なども考慮して新たに計画された事業とこれまで川尻地区において培われてきた事業とを合わせたものです。

これらの計画の中には、いままでも通り実施していくことが本当に川尻のためになるのかというものや、他の事業で補完したり、いくつかの事業を合わせてより良いものになったり、費用対効果を勘案して取り止めるべきものもあるのかもしれませんが、このことは今後のまちづくりに関する大きな課題であり、解決していくには多くの方が意見を出し合い、絶えず検討していくことが重要であると考えます。

ここに掲げた計画だけではなく、これらをヒントに自分で考え、身近な仲間と実行していくことも、またまちづくりだと思います。福祉や教育といった特定の分野にとらわれることなく、自分たちの暮らしの中での活動や行動をまちづくりという意識で取り組むことがこれからのまちづくりに関する大きな力になります。